

1 学校教育目標	
教育目標	I 豊かな人間性や社会性を育成し、多様な社会を主体的に生き抜く資質や能力を養う II 基礎力や汎用力を育み、知的好奇心をもって生涯にわたり学び続ける意欲を高める III 自らの心と身体を大切に、健康や安全を意識して活力ある生活を送る基礎を培う
育てたい生徒像	I 豊かな人間性や社会性を備え、自らの意志で未来を拓こうとする高い志をもつ生徒 II 学ぶ喜びを知り、基礎・基本の上に幅広い応用力を培い、自ら伸びようとする生徒 III 勉学や部活動を通して心身ともに成長し、他を思いやり、社会に貢献できる生徒
めざす学校像	I 人間力と自己有用感を向上させ、ともに夢を語り合える学校 II 知的好奇心を大切に、主体的な行動力と汎用力を育む学校 III 活力と規律ある教育活動を展開し、地域から信頼される学校
今年度の重点目標	○「知」「徳」「体」の調和を図り、主体性を伸ばす教育活動の展開

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
【学習指導】	生徒の学習時間確保や基礎学力向上のために様々な取組を行い、徐々に成果が上がっている。生徒の主体的な学習習慣については個人差がみられ、定着に向けた更なる取組の強化が必要である。3年間を見通した学習指導体制の在り方や教育課程編成について、学校全体で検討し、組織的に取り組む。
【生徒指導】	生徒どうしによる自治意識の醸成をめざし、生徒会や各種委員会を中心に活動の活性化を図ってきた。土台となる意識が少しずつ芽生えており、更なる取組を推進する。
【進路指導】	進路の年間計画に従って、模試・課外・「総合的な学習の時間」の内容を企画・実施し、平成27年3月卒業生の国公立大学合格者は前年度より増加し38名であった。「総合的な学習の時間」について、内容を見直し、充実を図ることが求められている。また、検討会の実施等により模試の結果分析を深め、授業等で生徒に還元するなど、より実効的な活用方法を模索し、生徒の進路実現につなげていく必要がある。
【学校運営】	文化祭一般公開や、中学生対象学校説明会に対して、多数の参加があった。本校のよさが理解されるよう、地域への情報発信が課題である。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題	
【学習指導】	朝学や課題、課題考査など、平素からの様々な取組により家庭での学習時間の増加を図り、生徒の学習習慣の定着をサポートする。特に中学校から1年次への学習がスムーズに移行できるよう重点的に取り組む。また、成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と協議し、補習・課題の在り方について指導計画を検討する。生徒の主体的な学習意欲の喚起が課題である。
【生徒指導】	生徒会や各種委員会を中心とした生徒の主体的な活動を推進し、生徒の自己有用感の向上を図る。また、いじめ防止基本方針等に基づき、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。
【進路指導】	「総合的な学習の時間」は「第一志望届」の効果的な活用を図るなど内容を改善し、より深化・充実させていく。模試や課外の実施内容や方法について検討し、さらに実効性を高める。
【学校運営】	学校の情報を地域に積極的に発信し、本校教育への理解と協力が得られるよう働きかける。
<チャレンジ目標> 自ら進んで実践・・・○「学年+1時間」の家庭学習 ○1%を誰かのために	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	・生徒の基礎学力の定着	・成績不振の傾向にある生徒を早期に把握し、教科・学年と連携して指導、支援する。 ・補習等については各教科が実施できるよう体制を整える。	4 各学期末考査の欠点保有者が全生徒の5%以内であった。 3 各学期末考査の欠点保有者が全生徒の5～10%であった。 2 各学期末考査の欠点保有者が全生徒の10～15%であった。 1 各学期末考査の欠点保有者が全生徒の15%以上であった。	3	3年生については、成績不振、時数不足が数人みられたが、追考査・補習により全員卒業予定である。1・2年生についても、複数の科目で成績不振となっている生徒もいるが、教務と担任が連携して、個別の面談を実施するなど、生徒とのコミュニケーションを深め、保護者に対する情報提供を進めて、早めの対応を図っている。	・成績不振の生徒に対する早めの個別面談実施など、きめ細かな取組がされており、評価できる。 ・朝学や週末課題など、平素からの積み重ねが重要であり、今後も継続的な指導をお願いしたい。	A
	・教職員の指導力の向上	・生徒による授業評価を実施し、授業の工夫や改善を行う。 ・公開授業による研修、教員間の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	4 年間2回以上実施し、授業の工夫改善に効果があった。 3 年間1回実施し、授業の工夫改善に一定の効果があった。 2 一部に実施できない教科、教員があり、あまり効果がなかった。 1 一部に実施できない教科、教員があり、効果がなかった。	4	今年度も生徒対象に授業アンケートを年2回実施し、生徒による授業評価を行った。アンケート結果を各教科で共有し、授業の工夫・改善につなげている。	・学校評価アンケートにおける授業への評価が、生徒と教員とで認識に差がある。生徒と教員とで、評価の基準が異なっているのではないかと考えられる。アンケートでの質問の仕方に工夫改善の余地があると考えられる。	
	・学力の向上や進路目標実現のため、進路ガイダンスの充実、また模試や課外の効果的な活用を図る。	・発展的学習内容を定着させるため、課外の効果的活用を図る。 ・全員受験の模試について結果分析会を各学年で行う。 ・1・2学年における模試の有効活用を推進するため、生徒が主体的にデジタルサービスを利用できる環境を整え、その利用促進を図る。	4 各学期中の課外の出席率が75%以上であった。 3 各学期中の課外の出席率が65%以上であった。 2 各学期中の課外の出席率が55%以上であった。 1 各学期中の課外の出席率が45%以下であった。 4 全学年合わせて5回実施した。 3 全学年合わせて4回実施した。 2 全学年合わせて3回実施した。 1 全学年合わせて2回以下しか実施しなかった。	4	1学期の課外の出席率は78%、3学年の2学期課外の出席率は85%であったが、1・2学年は、3学期まで課外が続くため出席率は出していない。また、受講率は、1年生78%、2年生60%、3年生74%となっており、受講率向上が課題である。 2 2学期中にベネッセコーポレーションの担当者を招いて、学年ごとの模試結果分析会を実施した。3学期に1年間を通した模試の結果分析会を実施し、今後の進路指導に活かす予定である。	・進学課外の受講率が、年間を通して高水準で維持されたい。進学課外で、受験に対する意識や対応できる学力の向上を図り、小野田高生が切磋琢磨する場となるよう期待している。	
進路指導	・進学校としてのキャリア教育を充実していく。	・「総合的な学習の時間」の活用により、自己にふさわしい在り方生き方や、進路について考察する学習活動を展開する。	4 各学年ともほぼ計画通り実施した。 3 各学年とも80%程度計画通り実施した。 2 各学年とも60%程度計画通り実施した。 1 各学年とも40%程度しか計画通り実施できなかった。	4	1年生は文理コース説明会、進路講演会、小論文研究、2年生は出前講義、小論文研究、3年生は進路講演会、小論文講座などを年間計画に沿って実施し、生徒の進路意識を高めることができた。また、2年生はキャリア教育の一環として、「第一志望届」の指導に力を注いだ。	・デジタルサービスを活用した取組は画期的であり、その活用を是非進めて欲しい。また、活用実績を検証し、今後のよりよい活用が進むよう、継続して検討していただきたい。	B
	・生徒が自ら考え、主体的に行動することにより、学校生活を活力あるものにする。また、生徒の自己有用感を高める。	・「生徒会」や「各種委員会」を中心に、学校生活の活性化を図り、自治意識・規範意識の醸成に向けた啓発活動を行う。	4 「意識向上につながった」と思う生徒が80%以上であった。 3 「意識向上につながった」と思う生徒が60%以上であった。 2 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以上であった。 1 「意識向上につながった」と思う生徒が40%未満であった。	3	生徒会を中心に、ボランティア活動・ケータスマホ問題・登下校における交通安全などの様々な課題について、主体的に計画・活動することにより、自治意識を高めた。	・小野田高生のあいさつマナーのよさを感じる。生徒会を中心とした主体的な活動を今後も推進し、学校生活を盛り上げていく欲しい。	
生徒指導	・教育相談体制の充実を図る。	・生徒の心の問題を早期に発見するためにアンケートおよび情報交換会を実施し、生徒の指導に活用する。	4 各学年年4回の情報交換会を実施し、指導に活用した。 3 各学年年3回の情報交換会を実施し、指導に活用した。 2 各学年年2回以下の情報交換会を実施し、指導に活用した。 1 各学年とも情報交換会が年1回以下に留まり、指導への十分な活用がなかった。	4	いじめや悩みに関するアンケートを5回実施し(年間6実施予定)、各学年での情報交換を密にして共通認識の下で指導を行った。また、必要に応じて早期にケース会議を開催し、組織的に対応することができた。	・早い段階でケース会議をもつなど、情報共有と早期発見・早期対応に努めていることは評価できる。いじめや不登校はどの子にも起こりうるので、今後も早期の対応を継続して欲しい。	A
	・読書活動を通して、生徒の豊かな心を育てる。	・読書に親しみ、豊かな人間性を育むため、1・2年生は年間10冊の本を読み、読書ノートを作成する。	4 80%の生徒が、年間10冊を読み、読書ノートを作成した。 3 60%の生徒が、年間10冊を読み、読書ノートを作成した。 2 40%の生徒が、年間10冊を読み、読書ノートを作成した。 1 40%未満の生徒が、年間10冊を読み、読書ノートを作成した。	4	95%の生徒が、年間10冊を読み、読書ノートを作成した。第58回山口県読書ノートコンクールにおいては、優秀賞2名、優良賞2名、入選4名であった。第61回山口県読書感想文コンクールでは、2年生の生徒が最優秀賞を受賞した。LHRでは、アクティブラーニング型の読書会を実施した。	・95%の生徒が1日10冊以上読書をしていること、読書ノートを活用して成果を上げていること、また、山陽小野田市立中央図書館と連携した図書委員会の活動など、活発な取組が進んでいることは評価できる。	
図書視聴覚	・学校図書館の環境を整備する。	・学校図書館の環境を整備し、図書委員会の活動を活性化させる。	4 図書委員会活動を活発に行い、学校図書館の環境も十分に整備できた。 3 図書委員会活動を定期的に行い、学校図書館の環境整備が80%できた。 2 図書委員会活動を定期的に行い、学校図書館の環境整備が60%できた。 1 図書委員会活動があまり行えず、学校図書館の環境整備も不十分であった。	4	文化祭において、図書委員会による展示発表と朗読劇のステージ発表を行い、好評であった。また、学校行事や講演会に合わせて図書展示した。図書だけは、毎月発行した。山陽小野田市立中央図書館との連携の一環として、中央図書館に「小野田高生おすすめ本コーナー」を設置し、市民に貸出をした。夏季休業中に蔵書点検を実施し、蔵書整理を進めた。集団読書テキストを揃えた。		A

保健体育	・生徒自ら健康管理を実践できるよう、意識高揚を図る。	・毎月生徒保健委員会を開催し、健康管理対策の実践や啓発に取り組むとともに、「保健だより」の発行による健康に関する情報提供等を通して、自らの健康に配慮する意識の高揚や態度の育成を図る。	4 毎月、保健委員会の開催、「保健だより」等を発行し、意識高揚に努めた。 3 2ヶ月に1回程度、委員会開催、「保健だより」を発行した。 2 3ヶ月に1回程度の委員会開催、「保健だより」の発行に留まった。 1 ほとんど委員会を開かず、形骸的な活動となった。	4 目標を達成するために、機会を捉えて保健委員会や学年別集会を頻繁に行った。その結果、「保健だより」の作成についても、意識高揚のための工夫や事前調べ学習を委員自らが積極的に進めようとした。義務的に発行するのではなく、本当に何を知らせたいかという意欲が内容にも表れた。こうしたことを機に、衛生管理活動や感染症防止活動にも波及し、自分たちで話し合い、アイデアを出し合いながら進めることができるようになり、このような動きが一般生徒の意識高揚につながった。	・保健委員会や環境整備委員会が中心となって主体的に活動している点は高く評価できる。こうした取組が、一般の生徒に浸透して、学校全体の意識が向上できるよう期待したい。	A
	・環境整備(特に清掃)と設備等の安全管理の充実を図り、きれいで事故のない環境づくりを推進する。	・毎月、整備委員会を中心に「清掃点検」と「安全点検」を実施し、1年間を通して、きれいで安全な環境づくりをめざす。	4 毎月「清掃点検」と「安全点検」を実施し、改善策を考えるなどして環境づくりに努めた。 3 2ヶ月に1回点検を実施し、改善策を考えるように努めた。 2 1学期に1回しか点検を実施することができなかった。 1 ほとんど点検を実施することがなかった。	4 環境整備は、担当者を中心に、掃除道具等の補充、不衛生場所のチェックや美化活動なども念入りに行った。保健委員会・整備委員会も積極的に活動し、年間を通じてきれいな状態を保つことができています。現在、新校舎への移転に伴い、環境整備の新体制(掃除分担や役割、掃除道具入れ替えなど)への移行も進めている。安全管理も事務室と連携し、施設・設備、道具・備品等の安全保守に努め、事故につながることはなかった。		
一学年	進路実現に向けた学習習慣の定着と学習時間の増加を促す。	・年間を通して家庭学習時間記録簿を記入するよう指導するとともに「学年だより」などで意欲の喚起に努める。 ・1学期定期考査前の放課後に自学自習の時間(学びの時間)を設定する。 ・入学早期に、学習ガイダンスを実施し、仮入学時実施のスタディサポートの結果解説、国・数・英の教科別ガイダンスを行う。	4 生徒の40%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 3 生徒の30%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 2 生徒の20%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 1 生徒の15%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。	3 2学期途中の進路指導部による調査では、平日の平均自宅学習時間が約1時間30分となり、1学期に比べ、10分程度減少した。自宅学習時間が2～3時間程度の生徒も30～40%いる一方で、0分や30分未満と回答する生徒が10～20%程度いる。これらの生徒について、毎日決まった時間に学習する習慣の定着を図ることが急務である。 ・1学期中間、期末考査前に「自学自習の時間(学びの時間)」を実施した。 ・4/23(木)に「学習ガイダンス」を実施。最初1時間半は、ベネッセ講師による講演。その後、終日、国語・英語・数学(それぞれ90分)の学習ガイダンスを全員を2グループに分けて実施した。	・入学当初の「学習ガイダンス」や「学びの時間」など、時機を捉えた取組をはじめ、時素からの朝学や週末課題など、地道な取組は評価できる。1年生の時から家庭学習の時間が着実に確保できるよう、取組を推進して欲しい。	B
二学年	進路実現に向けて主体的に学習に取り組む、学力の伸長と明確な進路目標を設定する。	朝学、授業、課外などの学習への取組が、より主体的なものとなり、学年指導の工夫改善を図る。また、進路意識の高揚を図り、2学期末に「第一志望届」を提出し明確な目標設定をする。	4 学習時間や進路意識が高まった生徒が70%以上いた。 3 学習時間や進路意識が高まった生徒が60%以上いた。 2 学習時間や進路意識が高まった生徒が50%以上いた。 1 学習時間や進路意識が高まった生徒が50%未満であった。	4 課外や朝学などへの取組意欲は高く、進路意識についても学年集会等を通して繰り返し刺激を与え続けるとともに、「第一志望届」の作成などを通して高まりがみられるようになった。それを主体的な取組につなげ、まずは「学年+1時間」を目標に学習時間の増加が実現するよう工夫していきたい。	・「第一志望届」の作成や、学年集会を通して継続的な指導により、模擬試験の総合偏差値がますますの結果となっていることは評価できる。学年全体での動きかけにより、意識の向上を図り、中だるみを解消して欲しい。	
		ウェブサービスの利用など模試を効果的に活用する。また、学習意欲の向上を図り、長時間の学習会(学習マラソン)などの学習会を設定し、学力の伸長を図る。	4 7月・11月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が55%以上いた。 3 7月・11月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が45%以上いた。 2 7月・11月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が35%以上いた。 1 7月・11月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が35%未満であった。	4 7月・11月・2月のいずれかの模試で3教科総合偏差値が50以上の生徒が95名で59.4%であった。平均偏差値等は過去4年間でも高いレベルにあるが、当初設定した高い目標に向けて、引き続き学力の伸長を図ってほしい。		
三学年	・受験体制の確立	・1学期当初からの進学課外受講率を高水準で維持し、学年全体の進路実現意識を高める。  ・長時間の学習会(学習マラソン)を実施するとともに、授業・課外に加え、日常的に個に応じた受験対策指導を行う。	4 進学課外受講率が、75%以上であった。 3 進学課外受講率が、70%以上であった。 2 進学課外受講率が、65%以上であった。 1 進学課外受講率が、60%未満であった。	4 1学期課外、夏季休業課外、2学期課外を通して、学年全体の93%の生徒が開講された講座のいずれかを受講している。	・進学課外に対する生徒の誠実な姿勢は評価できる。 ・山口東京理科大学における模擬試験の開催は、是非今後も継続していただきたい。 ・大学進学の実績が極めて重要であるため、実績の向上に向けて最後まで粘り強く指導して欲しい。	A
	・受験に向けた学力の伸長	・担任、副担任、進路指導部で連携を図りながら、必要に応じて担任以外の面談(進路相談)も積極的に取り入れる。  ・模試活用や教材の研究・生徒への情報提供を積極的に行い、生徒の学力向上に資する。	4 国公立大学合格者が、35名以上であった。 3 国公立大学合格者が、30名以上であった。 2 国公立大学合格者が、20名以上であった。 1 国公立大学合格者が、20名未満であった。	4 推薦入試、前期・中期・後期日程試験において十分な成果が上がるよう、個別指導を中心に受験対策指導に取り組んだ。 3月末日現在で、国公立大学に推薦入試で12名、前期・中期・後期日程で23名、合計35名が合格した。		
校務運営	開かれた学校づくり	・学校情報「東西南北」を活用し、諸行事の情報を発信する。	4 10回以上情報提供した。 3 9回以上 " 2 8回以上 " 1 7回以下しかできなかった。	4 1月末現在で13回の情報提供を行い、地元紙をはじめとして本校生徒の活動の様子が掲載された。	・普通科高校の学区が全県に拡大したため、学校の情報発信がこれまで以上に重要となっており、学校行事や生徒の活躍の様子を、積極的に情報発信して欲しい。 ・本館棟は完成したが、グラウンドの整備などの工事が継続されるため、生徒の安全に配慮しながら教育環境の整備をはじめ、業務改善には継続して取り組んで欲しい。	A
	信頼される学校づくりのため、家庭や地域との連携協力体制の充実を図る	・学校ホームページの内容について一層の充実を図り、随時更新により積極的な情報発信を行う。	4 年間36回以上情報発信できた。(月平均3回程度) 3 " 24回以上 " ( " 2回程度) 2 " 12回以上 " ( " 1回程度) 1 " 12回未満しか情報発信できなかった。	3 月平均2回程度の更新を行っている。ホームページ担当者のみならず、行事担当者で協力して原稿作成を行う体制の構築を図りたい。		
	業務改善	・運営委員会や職員会議において、校舎の移転に伴って発生する諸問題について協議するとともに、解決策を検討する。	4 諸問題を70%以上改善した。 3 " 60%以上改善した。 2 " 50%以上改善した。 1 " 50%未満しか改善できなかった。	4 校舎移転の日程調整、教室の配置等について運営委員会や職員会議で協議し、1月5日に移転を完了することができた。備品の配置等担当間で調整し、特段の問題は発生していない。		
	校舎の移転に伴って発生する諸問題の解決に努める					

6 学校評価総括(取組の成果と課題)					
(学習指導)朝学や課題、課題考査、長期休業中の長時間学習の取組など、生徒の学習時間確保に向けて取り組んでいる。しかし、家庭での学習時間は大幅に不足しているのが現状である。生徒の主体的な学習習慣をサポートしながら、来年度は特に、考査週間中の学習時間確保に取り組むたい。					
(進路指導)課外は、出席率と受講率が高い数学となったが、受講率を更に高める必要がある。模試は、分析の結果を生徒へ還元していくことが大切である。今年度、2学年ではインターネットを使ったサービスを活用し、進路意識の高揚と模試の有効利用に成果をあげている。					
(生徒指導)生徒が主体的に行動することをめざした。生徒会を中心として、各種委員会が協力し、学校生活における様々な課題について改善を進めることができた。課題としては、他者に目を向ける意識をもっと高めたいと考える。					
(教育相談)配慮が必要な生徒への早期対応を図るため、関係教員によるケース会議を開催し、情報共有や適切な対応に努めた。また、毎月の教育相談だより発行による情報発信を行うとともに、本年度新着任のスクールカウンセラーと緊密に連携した支援に取り組むことができた。					
(健康管理)昨年度以上に、保健委員会の主体的な活動の充実を図ることができた。					
(環境整備・安全点検)整備・安全点検は日常的に、また時期や機会を捉えて継続してきており、事故等も殆どなく、概ね目標は達成できた。					
(図書)読書ノートを中心とした読書指導を実施した。来年度も継続していきたい。図書委員会も積極的に活動している。さらに生徒主体の活動となるよう動きかけていきたい。また集団読書テキストを全校生徒分揃えるなど、図書室の環境整備も進めることができた。					
(開かれた学校づくり)生徒の活躍する姿や、学校の取組を積極的に情報発信することができた。ホームページ上で学校紹介動画をスマートフォンでも視聴できるよう掲載し、アクセス数も増加している。					

7 次年度への改善策					
(学習指導)成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と協議し、補習・課題のあり方について指導計画を検討する。特に考査週間・考査中の過ごし方について、大きく改善を図る必要がある。特に考査前1週間は、家庭での学習時間確保に加え、学校における自学自習時間の確保などについて、新たに実施していきたい。また、学習と部活動とのバランスをしっかりと図っていく必要がある。特に、中学校から高校へとつながる大切な時期にある高校1年生には、学習習慣をしっかりと身につける取組が必要である。					
(進路指導)課外の実績や出席率については、引き続き生徒の意識を高め、向上をめざしたい。模試については、導入後2年目となるインターネットを使った指導を、学年・教科と連携して充実していく必要がある。「総合的な学習の時間」の新しい内容も実施結果を見ながら改善していきたい。					
(生徒指導)今後も生徒が主体となって考え、活動していく方向で成長を促したい。他者、地域に向ける目も育てたい。					
(教育相談)生徒に関する課題について、担任等が一人で抱え込むことなく、迅速に情報を共有し組織的に対応できるよう、今後とも早期のケース会議開催に努めたい。					
(健康管理)保健委員会の活動内容について更なる進化・充実を図るとともに、計画的な実施につなげていきたい。					
(環境整備・安全点検)来年度も環境整備・安全点検を計画的に行う。また、来年度にかけて、グラウンドなど新校舎完成に伴う校内各所の復元作業がしばらく行われることから、その状況に合せた環境整備・安全保守も随時進めていきたい。					
(図書)図書室利用者が増えるよう、促していきたい。毎月の利用統計をとり、分析をしていきたい。					
(開かれた学校づくり)ホームページの更新及び報道機関等への情報発信の頻度と内容の充実を図るため、各分掌での協力体制を強化したい。					